

I C T実践シート 高等部④

<p>観点</p>	<p>コミュニケーション支援 ・ 活動支援 ・ 学習支援</p>
<p>目的・実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ II 類型 1 学年の生徒 コミュニケーション支援 ・ Z o o m を利用した、オンライン交流 ・ 入院中の生徒 1 名に対して、Z o o m をコミュニケーションツールとして、学校にいる 1 学年生徒と、2 0 分程度の交流学习を行った。
<p>方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前活動：教員との Z o o m による顔合わせ (3 0 分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前活動として、教職員と入院中の生徒との顔合わせを行う。オンライン通信の雰囲気慣れること、本人が疲れず交流できる時間の目安を調べた。 2 生徒との交流活動 (3 0 分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室で、学年生徒とクラスの話題を伝えたり、リラックスした雰囲気で会話を進めたりしながら交流を進めた。 ・ 使用器具：T V、i P a d、アプリ「Z o o m」
<p>成果 (有効だった点／児童生徒の変容等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に教師と入院中の生徒との顔合わせをしたことで、本人の現在の状態を知ることができた。また、当日は本人の緊張もほぐれ、話しやすい雰囲気を作ることができた。 ・ Z o o m での交流は、電話や手紙と異なり、直接生徒が会話することができ、笑顔で参加することができた。本人の顔を見ながら、育てている野菜の苗を一緒に見たり、本人へのメッセージを伝えたりすることで、「会えて良かった」「早く学校で会いたい」などの感想をもつことができた。終始笑顔で、楽しさをもって交流に臨み、終了後は再会できた安心感などを得ることができた。
<p>課題・改善案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信環境のテストの実施、交流するためのアプリを何にするか選ぶことで、よりスムーズに通信できた可能性もあった。 ・ 今回は「気軽に」行えるように機材をできるだけ簡略化した。しかし、本人の音量や聞き取りやすさなどを考え、ウェブカメラやパソコンを接続して通信環境の安定化を図ること、マイクを接続して声を拾いやすい環境を作るなど、実態に応じた機材設定が必要となる。 ・ 実践例を蓄積し、有効な機材の接続図をいくつか作る。誰でも「この実態ではこう使う」というように環境整備をすることも課題となる。 ・ 今回は 1 回のオンライン交流であったが、回を重ねる際は、「どんな話題なら相手が話しやすいか」「交流の進め方」など、生徒主導で企画を考え盛り上げる気持ちを育成することも大切となる。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は相手の通信環境もあり、交流のためのアプリは「Z o o m」であったが、場合に応じて、アプリの選択が必要になる。

